

「プライベートクレジット」の何が問題か？

ラジオ日経マーケット・テラス
4月28日（火）

合同会社なおい企画代表
日経CNBCキャスター 直居敦

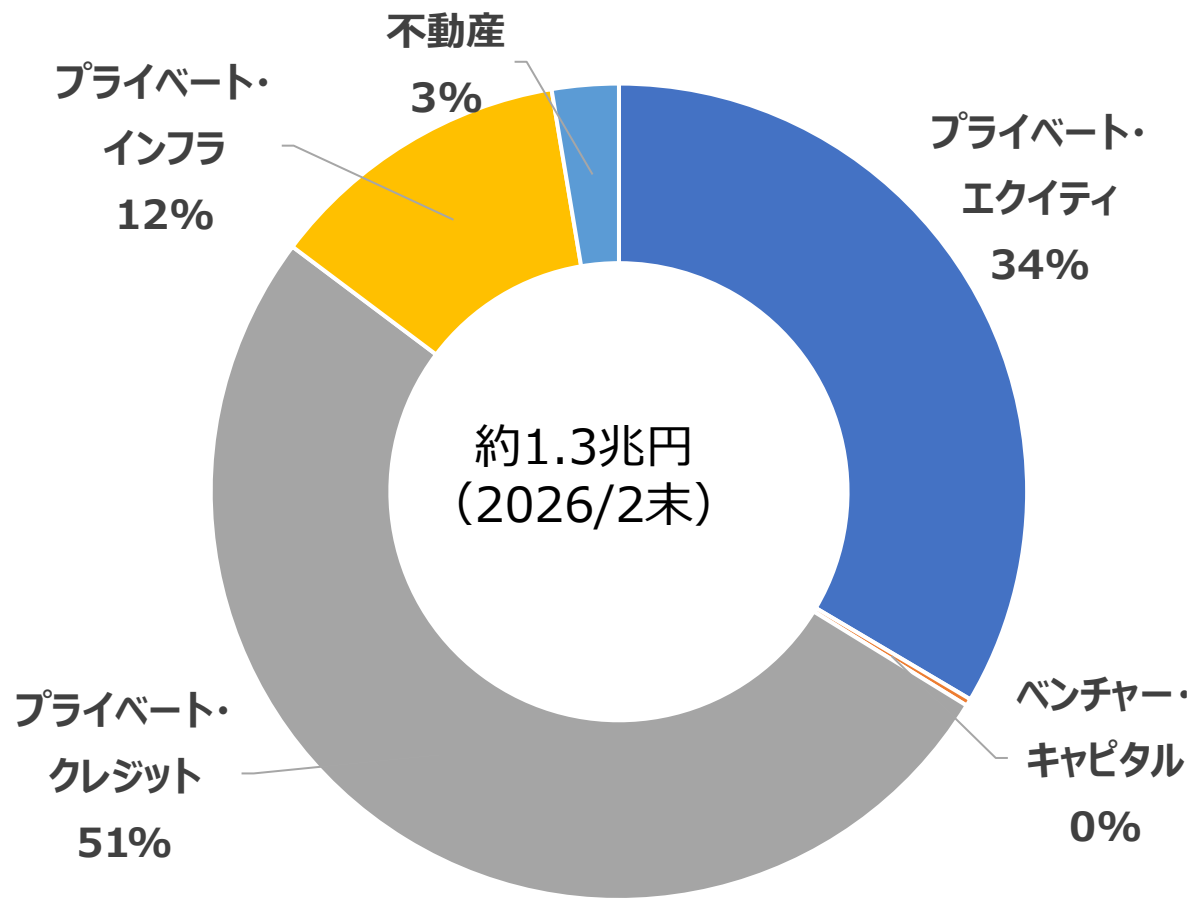
プライベート資産投資とは？

- 伝統的な金融機関とは異なるファンドが出資（エクイティ）、あるいは融資（クレジット、デット）した資産なども。
- 不動産、インフラなども含む。
- 米国を中心にリーマンショック後、金融規制が強化されるなかで拡大。低金利環境も後押し。最近ではクレジットが急拡大。
- 当初は機関投資家、超富裕層向けに流動性がない代わりに長期で高い利回り、成果が見込める金融商品として拡大。
- 最近では投資単位が小口化、一般の個人にも広く販売されていた。

プライベートクレジット、最近の話題

- 伝統的金融機関と違って、“プライベート”なだけに元々データ、開示情報は乏しい。
- 2025年秋、自動車ローン会社が破綻。「ゴキブリを1匹見つけたら他にもいる」（ジェイミー・ダイモン・JPモルガン・チェースCEO）。
- プライベートクレジットの融資先に懸念広がる。
- 特に最近^は個人投資家の解約請求が殺到。取り付け騒ぎ？
- 個人を取り込むために作った仕組み。四半期に一度、例えば資産の5%程度までしか解約請求を認めない。

日本で販売されている プライベート資産投資信託



プライベート資産ファンドの残高トップ5

| ファンド名 | 純資産 総額 (億円) |
|---|-------------------|
| ブラックストーン・プライベート・エクイティ・ストラテジーズ投信 米ドル建て | 3,876 |
| ダイワ・ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド (米ドル建て) | 3,155 |
| GSプライベート・クレジット戦略投信 米ドル建 | 1,906 |
| 野村マツコーリー・プライベート・インフラ・ファンド | 1,180 |
| 日興ワールド・トラスト・アレス・ストラテジック・インカム・ファンド 円建 (ヘッジなし) クラス受益証券 | 825 |

出所: Morningstar Direct。外国籍を含む日本で販売されているプライベート資産に投資を行う投資信託の純資産総額。

2026年2月末時点。モーニングスターのデータベース上でデータが取得できないものは除外している。

※モーニングスター・ジャパン元利大輔氏、2026年4月23日(火) 日経CNBC出演の際の資料より

リーマンショックの再来なのか？

- 融資、投資先にSaaS型企業も。
- 金利高止まりや先行き懸念からデフォルト率が上昇中。
- サブプライム住宅ローンの米国内残高が当時約1.5兆ドルだったのに対してプライベートクレジットは既に2兆ドル。
- ただし、レバレッジは限定的。
- 最近のFRB関係者の発言や、金融機関決算では特に危機感が強まるということとはなかった……。
- プライベートだけに詳細は分からないが……。

プライベートクレジット、何が問題か？

- 元々機関投資家や超富裕層向けのオルタナティブ（非伝統的資産）として拡大。
- ところが投資家層の成熟化から個人に。小口化。
- 日本でも数百万円単位からの投資が可能に。退職金マネーも。
- 日本市場では当初の拡大の勢いが強いことで、新規参入が相次ぐ。段々と“競争”が激しくなりつつある。
- 自分が見聞きした例では……
- そもそもまだリーマンショックの記憶が鮮明。
- 現状は流動性の危機ではなく、流動性のミスマッチか？